

新潟県立看護大学 第15回桜蓮祭



 新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

後援会だより

contents

- P.2 ● ごあいさつ
- P.3 ● 卒業式
- P.4 ● 桜蓮祭
- P.6 ● 課外活動の様子
- P.7 ● 学内活動の様子
- P.8 ● 学内活動の様子、年間カレンダー、お知らせ

vol.26
2017.3

ごあいさつ Greetings



新潟県立看護大学
学長 渡邊 隆

大学の次のステップ

後援会の皆様からは日頃よりご理解とご支援をいただき、いつもながら感謝申し上げます。

私は、この3月をもちまして大学を去ることとなりました。思い起こせば平成21年の4月にこの大学に赴任し、8年間の長きに渡り皆様にご支援をいただき、誠にありがとうございました。赴任してすぐ教育と研究、そして社会貢献を特に大学のミッションとして掲げ、大学からの発信基地としての看護研究交流センターの充実を手懸けしました。2009年に地域住民の皆さんとホームドクターとの会話の場：「いきいきサロン」が動き始めました。年間6回の健康、福祉や身近かな病気の問題を取り上げ、およそ1時間の夕食前のサロンを開催したのです。今年で8年、参加者は延べ4800名を超すものとなり、今では大学の名物となりました。この発信により地域の皆様から本学に親しみを持ってもらえることが出来ました。こうした活動から、大学を応援して下さる県立看護大学振興協会の発足となり、法人会員62社、個人会員52名の大きな会となり今年で3年目を迎えております。

一方、就任5年目から公立大学法人となり新たな活動も展開しています。その一つが、国際交流活動です。ベトナムのホーチミン医科薬科大学との学生・研究者交流、あわせて国立クイホア病院でのハンセン病治療の実習経験などの交流がはじまりました。また、今年度からはニュージーランドのクライストチャーチ工科大学と包括連携協定が結ばれ、子育て支援や母子看護の先端的な研究教育での連携の深まりが期待できるところです。

公立大学法人の4年目の評価もいただき、教育、研究、社会貢献ですばらしい活躍が認められ次年度の期待が大いに広がっているところです。

こうして発展してきた本学は、新たに大学院博士後期課程の申請を文部科学省に提出したところです。来るべき平成30年4月には輝かしく出発することになるでしょう。これは私たちの大学が、学部-大学院修士-大学院博士という一連のシステムをもち、大学としての完成の段階に入ったということです。創設から15年、このすばらしい発展を皆さんと喜びたいと思います。

これまでと同様に力強いご支援を期待してご挨拶いたします。



卒業式 Graduation ceremony

旅立ちの言葉

新潟県立看護大学看護学部看護学科
卒業生代表

暖かい日が続き、桜が開花する日が近づくとともに、私たち十二期生の大学生活もついに、終わりを迎えようとしています。

私たち、十二期生、九十五名は、この良き日に、無事に旅立ちの日を迎えることができ、とても幸せに思います。この日を迎えることができましたのは、お忙しい中、ご参列いただきましたご来賓の皆様、渡邊学長をはじめ、諸先生方や大学職員の皆様、なにより、ここまで私たちを支えてくださった家族のおかげであり、卒業生一同、大変感謝しております。

振り返ってみると、入学した時のことがつい先日のように思い出されます。四年前、初めて十二期生のみならずと出会い、これからの大学生活を思い浮かべ、不安や緊張、楽しみなどのたくさんの気持ちを抱え、ドキドキしていたことを覚えています。新しい環境での生活は何もかもが新鮮で、緊張しながらも友達ができ、優しい先輩方とサークルや学校行事を楽しみました。学年が上がるとともに専門性の高い授業を受けたり、継燈式を行ったり、自分の中の看護への意欲が高いものとなっていきました。三年次では実践的な演習や領域別実習で慌ただしく過ぎた一年でした。自分の未熟さに悔しさを覚え、涙した日もありました。しかし、患者様と関わらせていただき、「ありがとう」と言ってもらい喜びを感じることで、看護の楽しさを実感することもできました。ついに迎えた四年次では、実習、研究、就職活動、国家試験など、多くのことに追われ、さまざまな壁に直面し、逃げ出したくなることも多々ありました。そんな辛い時、同じ志を持ち、学び合ってきた仲間たちが、大きな支えとなりました。楽しい時も、辛い時もともに時間を過ごし、素直に意見を言い合える仲間たちと四年間過ごすことができたことを私は一生誇りに思います。

私たちは、これから自分の好きな場所で、または今いる場所で、自分ができることを、自分しかできないことを探して、追究していくことが大事だと思います。人はどこでも自分の幸せを見つけられます。辛く苦しく思うことも、今の自分を作ってくれています。

今日は、私たちが新潟県立看護大学の学生として過ごせる最後の日です。この四年間の思い出と経験は、きっとこれからの人生における宝物になると思います。この大学で得た知識や経験を励みとし、患者様に寄り添って、卓越した看護を行えるよう、日々努力し、精進していきたいと思えます。

本日まで私たちを支えてくださいました諸先生方、大学職員の皆様、病院関係の皆様にご心より感謝申し上げます。また、私たちが慕ってくれた後輩の皆さん、これからのご活躍を期待しています。

最後になりましたが、本日心温まるご祝辞とご臨席を賜りました皆様に、重ねてお礼申し上げますとともに、後輩の皆様のご健闘とご活躍を祈り、新潟県立看護大学のより一層のご発展を願って旅立ちの言葉とさせていただきます。



“旅立ちの言葉” を述べた さん(左)



成績優秀者として表彰を受けた さん(左)と さん(右)。後援会から賞状額と記念品を贈呈しました。





桜蓮祭実行委員長

今年は、平成 28 年 11 月 5 日（土）に第 15 回桜蓮祭を開催しました。本年度のスローガンは「百花斉放～絆の花を咲かせよう～」とし、当大学の学生の学習やサークル活動の成果を地域の方に知ってもらい、地域の方と交流できる企画を様々な学生団体が準備・実行してくれました。

私は、学園祭を運営するのは初めてで、戸惑うことが多くありましたが、15 回という節目の年でもあるので、それにふさわしい良い学園祭にしようと実行委員の仲間とともに試行錯誤し、無事に桜蓮祭を終えることができました。その背景には、スポンサーとなってくださった 37 社の企業の方々や、後援会の皆様からのご協力、事務局や先生方の支えなどがあり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

おかげさまで、当日は快晴となり、3 組のゲストのパフォーマンスをはじめ、すべての企画が無事実行でき、700 名近い来場者がお越しくださいました。ですが、大きな問題はなかったものの反省すべき点が多々あるため、来場者の皆様にご書いていただいたアンケートなどを活用し、来年度はさらに素晴らしい活気のある桜蓮祭となるよう引き継いでいきたいと思っております。

来年度の桜蓮祭もご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い致します。また、ぜひ桜蓮祭にお越しください。心よりお待ちしております。



地域とのふれあいの一環として、大学近くの子登保育園の年長さんの作品を展示しました。

自分の顔のまわりには好きな人や物を描き、自分との絆を深め広げられるようにとの願いが込められています。テーマどおりすばらしい絆の花が咲きました。



桜蓮祭終了後は、実行委員や企画団体等スタッフで後夜祭も開催しています。

百花斉放

～絆の花を咲かせよう～

Let the flower of friendship bloom!

2016



恒例のピンゴ大会。こどもから大人まで大勢の方が参加しました。会場から“ピンゴ！”という声が響き渡り、豪華賞品をゲットしている一方で“ハ～”というため息も。



毎年献血会場を提供し、桜蓮祭あげて献血PRの協力をしています。今年も、骨髄バンク登録会も初めて同時開催しました。多くの学生が骨髄バンク登録してくれたことで、「1回の登録会でこれほど多く登録してもらったことはない」と、とても感謝されました。



陸上サークル ミニアメリカントック屋さん



茶道サークル 桜蓮茶会



災害看護サークル ハンドマッサージ



合唱サークル 混声合唱



ダンスサークル DANCE LIVE 2016



ソフトテニスサークル タビオカジョース



エアロビサークル エアロビダンス



アウトドアサークル とん汁



4年生 ハカレンジャー



法螺貝体験



課外活動の様子

Extracurricular activities

謙信公祭 ～“ほらガール&ほらボーイ” 初陣飾る～

8月21日

上越市が毎年開催している謙信公祭で、本学学生と教員が上杉軍、武田軍の両軍の法螺貝隊に扮し、初陣を飾りました。

甲冑をまとい炎天下の中、法螺貝を吹きながら約2kmの「出陣行列」。また、「川中島合戦」（再現）では、法螺貝を吹いて各軍の出陣の合図を送りました。

法螺貝隊には男子学生の“ほらボーイ”もいるのですが、最近流行の呼び方のせいか巷では通称“ほらガール”と呼ばれ注目を集め始め、その姿に憧れを抱いた中高生が、オープンキャンパスや桜蓮祭に「法螺貝を吹いてみたい」と多く訪れました。



勇壮な謙信公像

▲上杉軍 謙信公像前から“いざ出陣”



◀武田軍 川中島合戦法螺貝で出陣合図

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016 in にいがた

～私たちがついてるよ 安心して歩いてね～

10月13日

リレー・フォー・ライフは、がん制圧・患者支援のための募金を集める24時間（夜間越え）のチャリティープログラムで、全国各地で毎年開催されており、新潟県では9月18～19日に新潟市において開催されました。

本学の学生も昨年度から他大学の看護学生とともに参加しており、今回は6名が活動しました。当日は、初秋の残暑が残るもののあいにくの雨となりましたが、イベントに参加した方々の血圧測定を行ったり、リレーウォークに参加したり、また、他大学の学生との交流を深めたりと有意義な一日になりました。



臓器移植フォーラム2015in上越

～よ！千両役者～

12月21日



（財新潟県臓器移植推進財団が主催する「臓器移植フォーラム2016in上越」に本学2年生5名が寸劇の役者として参加しました。

「～家族の選択、あなたは知っていますか～」と題したこの寸劇では、それぞれ父親が脳死状態となった家族、病院の医師・看護師に扮し、臓器提供意思表示方法や臓器移植について多くの人に理解していただくための一役を担いました。会場からは、熱演に対して沢山の拍手が送られていました。

また、FM新潟のシリーズ企画「どーなの？臓器移植シーズン9」の公開録音のパネラーとしても参加し、看護学生らしい意見を述べていました。



学内活動の様子

Campus activities

オープンキャンパス

8月5日、22日

学生からの協力をいただきながら、大学最大のPRイベント「オープンキャンパス」を開催しました。

来場した高校生からは講義、演習など様々な体験をしてもらいました。

また、よさこいサークルの演舞のほか、ほらガールの法螺貝披露により課外活動の魅力も十分伝えることができました。



ふれあい実習発表交流会

10月13日

1年生が「ふれあい実習」として直接地域の生活に触れながらの初めての実習を行いました。その実習成果を発表する発表交流会を開催しました。

当日は、実習先としてお世話になった妙高市平丸、矢代、杉野沢の各地区の住民のみなさんを招待し、実習で気づいたこと、考えたことを発表することで感謝の気持ちを伝えながら、さらに交流を深めました。



学生との意見交換会

12月21日



恒例となりました「学生と教職員との意見交換会」を開催しました。

学生からの質問や意見に対し、大学側として真摯に受け止め、少しでも良い大学へ向けて情報交換の貴重な機会となっています。学長からは、優しい中にも厳しいお話しもあり、学生側も真剣に受け止めていました。

看護研究発表会 12月20日

4年生の集大成となる「看護研究発表会」を開催し、4年間修得した知識、実習等を基に、それぞれ選定したテーマについて研究した成果を発表しました。

当日は、学生、教員のほか実習先の職員の方々からもおいでいただき、プロならではの鋭い質問もありましたが、しっかりと回答する姿を見て、とても頼もしく思えました。



29年度年間カレンダー

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春季休業 (4月1日～4日) ガイダンス (4月5日～6日) 入学式・後援会総会 (4月7日) 前期授業開始 (4月10日) 1年次生学外オリエンテーション (4月14日～15日)	開学記念日 (5月8日)		継燈式 (7月1日)	夏季休業 (8月1日～9月30日) ※時間割の都合で授業が開催される場合があります。		後期授業開始 (10月2日)	桜蓮祭 (大学祭) (11月4日)	冬季休業 (12月27日～1月3日)			卒業式 (3月13日) 春季休業 (3月14日～30日)

後援会の主な事業

会員相互及び大学との連携

総会を年1回、入学式当日に行い、毎年度の事業計画を決定します。年2回、「後援会だより」を発行し、学内での学生活動などを紹介しています。

学生自主活動推進事業

学生が自主的に運営している自治会、桜蓮祭 (大学祭)、継燈式などへの助成を行います。

学生教育振興事業

1年次に購入する実習衣や各実習に伴う雑費などを補助します。

学生福祉増進事業

学生食堂及び売店への光熱水費等の補助を通して、食事や清涼飲料水等を低価格で学生に提供しています。小児感染症抗体価検査や学外オリエンテーション費用などの一部を補助しています。

平成29年度新潟県立看護大学後援会総会

お知らせ

日時 平成29年4月7日(金) 入学式終了後 11:30～12:10

会場 本学第1・2ホール

新潟県立看護大学後援会

後援会事務局 お問合せ先
 〒943-0147 新潟県上越市新南町 240 番地 新潟県立看護大学 教務学生課
 Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815 E-mail : togaku@niigata-cn.ac.jp